

太田市自分ごと化会議 2025

提案書

<テーマ>

親と子の笑顔輝くまち おおた を目指して

令和8年3月

太田市自分ごと化 2025 委員一同

<目次>

| | |
|------------------------------------|---|
| はじめに | 1 |
| I 「太田市自分ごと化会議 2025」の概要 | 2 |
| II 自分ごと化会議からの3つの提案 | 4 |
| 提 案 1 給付型からサービス型へ | 5 |
| 提 案 2 子どもの居場所があふれるまちに | 6 |
| 提 案 3 「届かなかった」「知らなかった」をゼロにする | 7 |

はじめに

昨年 11 月から始まった太田市自分ごと化会議 2025 では、「親と子の笑顔輝くまち おおた を目指して」をテーマに全 4 回の会議を開催し、議論を重ねました。無作為に選ばれた 900 名の中から参加を希望した 13 名と、過去にこの会議を経験している OB・OG の 8 名が、世代や立場を超えて意見を交わしました。

第 1 回の会議では、太田市の子育て施策に対して普段感じていることや、それぞれの関心事について話し合いました。参加者一人ひとりの実体験に基づいた意見交換を行うことで、お互いの考えを共有しました。

第 2 回の会議では、第 1 回で出た話題をさらに掘り下げて議論しました。その中で、「子育てに必要な場所づくり」「無償化施策のあり方」「情報の伝え方」の 3 点の課題が特に重要であると認識しました。これらを軸に、現状で何が不足しており、どうすればより良くなるのかを検討しました。

第 3 回の会議では、ナビゲーターの馬場拓也氏から、地域に開かれた居場所づくりについてのお話を伺いました。地域全体で子育てを支えるという視点や具体的な事例を学んだことで、議論がさらに発展し、自分たちだけでは気づけなかった新しい視点を取り入れることができたと感じています。

第 4 回の会議では、これまでの議論で出た意見を整理し、集約する作業を行いました。

そして、太田市の子育て施策に対する私たちの思いを具体的な言葉にして、最終的にこの提案書という形にまとめました。

一連の会議を通して私たちが感じたことは、太田市の子育て施策は充実しているということです。現状の制度が整っていることを理解した上で、さらに良くするためにはどうすればよいかという視点で議論を重ねることができました。また、今回の話し合いで得た気付きは、行政に要望を出すだけでなく、私たち住民自身も当事者として行動することが大切だということです。これからは、住民と太田市がそれぞれの立場から子育て施策について考え、一体となってより良い子育て環境を作っていく必要があります。

太田市にこの提案書を有効に活用していただくことを望むとともに、こうしたまちの現状を「自分ごと」として考える取り組みが今後も続いていくことを期待します。

令和 8 年 3 月
太田市自分ごと化会議 2025 委員一同

I 「太田市自分ごと化会議 2025」の概要

○太田市自分ごと化会議2025委員

| | |
|---------------------|-----------|
| 無作為に抽出し案内を送付した人数 | 900人 |
| 無作為抽出により応募した委員(応募率) | 15人(1.6%) |
| 過去の会議のOB・OG(2回目の参加) | 8人 |
| 参加した委員(実際の参加者合計) | 21人 |

○太田市自分ごと化会議2025委員一覧 ※五十音順、掲載に同意いただいた委員の氏名を掲載。

| | | | | |
|-------|--------|---------|-------|--------|
| 青木 幸 | 植木 志保 | 加賀崎 勝之介 | 金澤 舞桜 | 倉林 正 |
| 栗原 和之 | 近藤 由佳 | 齋藤 一之 | 里見 茉耶 | 椎名 智友里 |
| 清水 結菜 | 田中 要有 | 中村 建児 | 丸山 拓也 | 三嶋 綾夏 |
| 茂木 愛 | 與那嶺 友里 | 渡邊 未乃莉 | | 他 3名 |

○太田市こども課 ※テーマである子育て施策の担当部局として会議に参加

- ・ 武田 輝美子(参事)
- ・ 橋本 淳(課長補佐)
- ・ 今西 真右(主任)

○一般社団法人構想日本

<コーディネーター(議論の整理役)>

- ・ 前田 真

<補助スタッフ>

- ・ 秋元 真彦
- ・ 飯島 拓郎
- ・ 野村 要介
- ・ 森 泰雄

○合同会社多元現実

<補助スタッフ>

- ・ 青山 柊太郎
- ・ 高木 俊輔
- ・ 西村 惟
- ・ 秋葉 杏介

○社会福祉法人愛川舜寿会

<ナビゲーター>

- ・ 馬場 拓也(代表)

○テーマ

「親と子の笑顔輝くまち おおた を目指して」

○各回の概要

第1回会議:2025年11月1日(土)

- ・ 自分ごと化会議の概要説明(太田市企画政策課)
- ・ 自分ごと化会議とは(構想日本)
- ・ 「太田市のこども施策について」(太田市こども課)
- ・ 委員の自己紹介
- ・ テーマについて議論

第2回会議:2025年11月29日(土)

- ・ 第1回会議の振り返り
- ・ テーマについて議論
- ・ 「改善提案シート」の記入

第3回会議:2025年12月20日(土)

- ・ ナビゲーターによる情報提供「地域共生社会について」
- ・ 第2回会議の振り返り
- ・ テーマについて議論
- ・ 「改善提案シート」の記入

第4回会議:2026年1月31日(土)

- ・ 提案書案を基に議論

○集合写真



II 自分ごと化会議からの3つの提案

◆無償化施策の質的転換

提案

1. 給付型からサービス型へ
～親の笑顔が子どもの幸せにつながる仕組みづくり～

◆遊び場や拠点の再定義

提案

2. 子どもの居場所があふれるまちに
～地域みんなで親と子を笑顔にする～

◆情報のあり方

提案

3. 「届かなかった」「知らなかった」をゼロにする
～情報の格差が未来の格差にならない社会の実現に向けて～

◆無償化施策の質的転換

提 案

1. 給付型からサービス型へ ～親の笑顔が子どもの幸せにつながる仕組みづくり～

今までの子育て支援は「医療費無料」「給食費無料」といった「金銭的負担の軽減(給付型)」に重きが置かれてきました。大いに恩恵を感じつつも、参加者からは「何でも無料にすれば良いわけではない」という声が多くあがりました。私たちが、本当に求めているのは、孤立しない育児環境や、心身の休息です。これからは、一律の給付・無償化施策を見直し、一時預かりや産後ケア、家事支援といった「保護者のリフレッシュ」や「育児負担の軽減」を提供するサービス型の支援に重点をおく必要があります。「命の安心(医療)」を始めとする優先度の高いものへの給付は続けつつ、親と子の笑顔がより一層輝くサービスの質を高めるために、何度も議論を重ねました。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 安易な病院利用を控えて貴重な医療資源を守る。
- ② 医療費について、質の高いサービスを受けるために、ワンコインの「納得感のある負担」を前向きに受け入れる。
- ③ 家庭でも規則正しい生活習慣(睡眠時間や栄養バランスなど)を意識した生活を送る。

地域

- ① 近所の同世代と無償化事業の必要性について話し合う場を作る。

行政

- ① 医療費を完全無料ではなく、少ない金額でも良いから支払う制度を構築する。
- ② 市民が無償化事業を維持することの必要性についてどう思っているのか把握して実現に向けて検討する。
- ③ 全てを一律に無償化するのではなく、義務教育期間かどうかなどから施策の優先順位を明確にする。
- ④ AI や LINE、電話、メールなどで、定年退職した看護師などの専門家から病院に行くべきかどうかの助言を得られる相談体制を構築する。
- ⑤ 無償化や給付の対象から外れた世代(オムツ無料化の対象年齢外など)に対しても、制度の切れ目による不公平感が生じないように、リフレッシュ支援や家事援助などの代替サービスを提供できる仕組みを構築する。
- ⑥ 一律のサービス提供や質の追求だけでなく、各家庭の多様なニーズに細やかに対応できる支援メニューを構築する。

その他

- ① IT を活用した予約システムやオンライン診療を推進し、誰もがスムーズに受診できる環境を整備する。その際、デジタル機器に不慣れな高齢者などに配慮して、来院による予約枠とオンライン枠を適切に分け、受診の機会が平等に保たれるようにする。

◆遊び場や拠点の再定義

提 案

2. 子どもの居場所があふれるまちに ～地域みんなで親と子を笑顔にする～

今の公共施設や公園は草が生い茂っていたり、ボール遊びやスケートボードの使用禁止など、規制の厳しい場所が増え、子どもが安心して楽しく遊べる場所が減ってきています。また、現代の子育て世代のニーズは多様化しています。障がい者をはじめ、少数派の人たちの声を聞き、寄り添いあう関係を構築していくことが、よりよい子育て環境につながると考えます。私たちに必要なのは、昔ながらの駄菓子屋のように、子どもからお年寄りまでが自然に集まり、おしゃべりが生まれる「まちのたまり場」です。そこに行けば、子供が安心して遊べて、親も誰かと話せて休める、そのような「拠点」として既存施設を再生させたいのです。特別な建物ではなく、今ある場所を「みんなの居場所」に変えていくことが私たちの理想です。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 子供だけでなく、誰もがお互いに笑顔で挨拶をする。
- ② 子どもの成長に興味を持ち、地域の宝として温かく見守る。
- ③ 自分が使った場をきれいにし、ゴミが落ちていたら拾うなど、みんなの場所を大切にす。
- ④ 自分の意見が言えない人が取り残されてしまうので、まずは意見を言ってみる、もし周りに意見を言えない人がいれば声をかけてみる。
- ⑤ 子ども食堂の料理を作る側として活躍する。

地域

- ① 自分たちで公園の隅などに『駄菓子屋(カフェのような集まれる場所)』をつくり、親も子もふらっと立ち寄れる場所にする。
- ② 謎解きやスポーツなど、子育て世代が顔見知りになれるイベントを自分たちで企画する。
- ③ お年寄りや若者が子どものサポートをするだけでなく、若者や子どもがお年寄りを労り、支えながら知識や技術を教わり継承していく、双方向の関係をつくる。

行政

- ① 公園や施設に、スマホの充電や医療機器(吸引器など)が使える「電源」を整備する。
- ② 子どもが利用する児童館などの公共施設に大人も利用できるカフェを開設する。
- ③ マイノリティ(重症心身障害児など)の親同士をつなげるコーディネートを行う。
- ④ 障がいがある子もない子も一緒に過ごせる「混ぜこぜ」の場づくりを進める。
- ⑤ 結婚のお祝いとして、エコバッグなどの記念品や、将来の子育てに役立つ特典を贈るなど、まち全体で門出を祝う仕組みを作る。

その他

- ① 特定の病気(心疾患など)を抱える子を持つ親同士で、情報交換や物品(シリンジなど)の譲り合いができる場を作る。

◆情報発信のあり方

提 案

3. 「届かなかった」「知らなかった」をゼロにする ～情報の格差が未来の格差にならない社会の実現に向けて～

「知らないことが損になる」。今回の会議で、参加者から発言された最初の意見です。今、子育ての現場では知らず知らずのうちに深刻な情報の格差が広がっています。「申請期限が昨日までだった」「対象だと知らずに給付を受けられなかった」などと、本来受けられるはずの支援を見逃し、不公平感を抱く市民がたくさんいます。子育てはただでさえ孤独で時間に追われる日々です。その中で、必要な情報を自力で探し出し、理解し、手続きすること自体が、子育て世代にとっての障壁となっているのです。情報格差を「個人の責任」として切り捨てるのではなく、市民と行政がお互いに歩み寄り、全ての親子に必要な情報を届ける仕組みへとアップデートする社会の実現にむけた新たな一歩を踏み出すため、提案します。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 自分から情報を得るためのアンテナを張る、興味を持って調べる（「知らない」で終わらせない）。
- ② 得た有益な情報（病院情報や補助金など）をママ友・パパ友にシェアする。

地域

- ① ネットを見ないおじいちゃん・おばあちゃんにも、大事な情報が届くよう声をかけ合う。
- ② 自治会や地域の集まりで、スマホを使った行政サービスの利用方法や情報収集の仕方を教え合い、情報格差（デジタルデバイド）を地域の中で解消する。
- ③ 地域の役立つ情報をコンビニやスーパーマーケットなどの誰もが立ち寄る場所に分かりやすく張り出す。
- ④ 回覧板が回ってこないアパートの住民や引っ越してきた住民にも情報が届くよう、SNS を活用することや新しい情報を地域で声かけする。

行政

- ① 広報資料をスマホで見やすい形（文字が大きく、スクロールしやすい形式）に作り直す。
- ② LINE などの SNS を活用し、対象年齢や属性に合わせた情報の配信に加え、過去の情報も探しやすいようタグ付けやインデックスを整備する（多すぎる情報は逆に見ないため）。
- ③ 市民からの意見や問い合わせに対し、結論だけでなく「どのような背景でその判断に至ったか」という検討プロセスを可視化して公表する工夫を行う。

その他

- ① 民間の店舗でも、エコな機械を買ったら「補助金出ますよ」と案内があるように、関連商品の購入や窓口利用時に情報を案内するようにする。

自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！